



ミニムス *Turbinicarpus minimus*

小さいサボテンが群生している姿が特徴。ひとつひとつは小さいが、群生が増えボリュームも増して存在感のある株になる。



スーパー兜 *Astrophytum asterias cv. super*

まるで万華鏡を覗いた時のように広がる美しい模様と、大きめの白点部分はピロードを思わせるマットな質感。模様、形などは個体差がある。



姫春星(ひめはるぼし) *Mammillaria humboldtii 'caespitosa'*

1つの個体が大きくなり、小さい株がいくつも群生し成長する。ふわふわのように見えるのは繊細なトゲ。小さなピンク色の可愛い花を咲かせる。

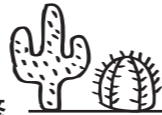


強刺バッテリー *Gymnocalycium vatteri 'ferociorum'*

普通よりトゲが太いタイプのバッテリー。トゲも強く無骨なイメージとは裏腹に美しい白い花を咲かせる。そのギャップも魅力のひとつ。

サボテン

サボテンと言ったら、西部劇に出てくるような柱サボテンやトゲがあり丸い姿を思い浮かべる人も多いのでは。サボテンにもトゲのないものや、小さくて可愛い姿のものなど、個性的な姿をしている種類もたくさんあります。そんなサボテンの種類の一部を紹介。



育て方監修



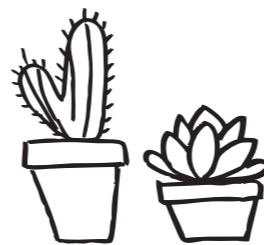
CORON CACTUS
芳山 比斗志さん

1981年生まれ。草花生産園で植物の生産を学んだ後、趣味であったサボテンの品種改良が専門家に評価された事がきっかけとなり2007年に専門業者への卸販売を始める。その後、サボテン専門園であるCORON CACTUS(コロンカクタス)を開園しサボテンの育種に力を入れている。



サボテンと多肉植物。

トゲトゲのものから、ふわふわのものなど個性的なルックスのサボテンと多肉植物。私たちの暮らしに彩りや楽しみをプラスしてくれます。近頃ではブームとしてテレビで取り上げられることも。そんなサボテンと多肉植物、一緒に育ててみませんか。



Column

“斑入り”の斑って何？

植物の色は緑だけではなく、黄色や白などが生じることもあります。植物全般に葉や肌、花びらなどの地の色に黄色や白が混ざっていて、筋や斑点が生じて美しい模様を描いている状態を「斑入り」と言います。斑は組織の一部分の葉緑素の欠乏により、通常は緑色の部分が黄色や赤に変わっている状態で生じています。



Q. 土はどんな土でもよいの？

A. 保水性、排水性を持ち合わせた土をそれぞれ混合して使用します。サボテン専用の培養土を使うのも良いでしょう。



Q. 花が咲いた後はすぐにとってしまって大丈夫？

A. 無理に引っ張ると肌(表面)を傷めます。簡単に取れる様になるまで待ちましょう。花がらに水がかかると花の色素でサボテンが汚れますので注意してください。



Q. まだらのような模様が出てきました。これは何？

A. サボテンにもウイルスがあります。肌に黄色っぽいまだら模様が出たものは感染している可能性があります。病状が出たものは隔離して下さい。人には害はありません。樹液で感染するので根や株を切る時に使う刃物は熱消毒をしてください。



Q. 触れたらぶよぶよ。もう戻すことはできないですか？

A. 腐敗菌が原因の場合は肌色が黄色、茶色に変色して助かりません。根に異常があり、吸水ができないと張りがなく柔らかくなる場合がありますが、この場合は水やりをしても水は吸えません。鉢から抜き上げて根のチェックをしてください。

サボテンQ&A

大事なサボテンの様子がどうもおかしいけれど、これは大丈夫？水やりの方法これでよいの？などサボテンの「こんな時はどうする？」を紹介。

Q. 水やりのタイミングがよくわかりません。

A. 成長期に土が乾いたら水やりするのが基本です。竹串を土に挿して抜いた時に土が付くかを見るのも、乾湿が分かる目安になります。



Q. 水やりは霧吹きで行っても良いですか？

A. 霧吹きは必要ありません。水は鉢底穴から流れでるくらいたっぷり水やりしてください。

Q. トゲのあるサボテン。植え替えはどうしたら良い？

A. トゲが刺さらないように、グローブを着用して優しく持ってください。植え替えは土が乾いている時に行いましょう。鉢は鉢底に穴の空いているものを選びましょう。鉢のサイズは大きすぎないように。



サボテンの基本

サボテンの選び方から水やりなどの管理の方法って？まずは基本の育て方を知ろう。成長する姿を観察したり花が咲いたり楽しみは色々あります。きっとサボテンがより好きになるはず。

押さえておきたい3つのPOINT

1. 水やりは土が乾いてからたっぷり
2. 風通しのよい場所で管理
3. 季節に合わせた管理をしよう

【よい株の選び方】

ぐらつきのある株は、植え替えてから間もない状態か、根が痛んでいる可能性があります。またひろひろ成長しているものではなく、がっちりとした株を選んでください。



【水やり】

成長期は土が乾いたら水やりをすることが基本です。鉢底の穴から水が流れ出るくらい水やりをしてください。



【置き場】

環境は育てる人がつくるものです。長時間、日光が当たる風通しのよい場所が良いです。日光が強すぎるとサボテンも葉焼けします。直射日光が当たりすぎる場合は遮光し種類に適した置き場を作りましょう。室内の場合は、植物育成ライトを使うこともひとつの方法です。



【肥料】

成長の遅い植物ですので、ゆっくりと長く効く「緩効性肥料」が適しています。



季節の管理

SPRING 春

桜が開花する頃、多くのサボテンが成長を始めます。植え替えの適期ですが、成長が始まる少し前に行うと新しくできた根を痛める事はありません。

AUTUMN 秋

成長期です。温暖な地域ではお盆過ぎから植え替えを行います。寒さへ向かうので根を整理して切るのは春よりはやさしく行ってください。

SUMMER 夏

サボテンが最も苦手な季節です。高温の為、土が速く乾きますが根の成長はゆっくりですので、水やりのしすぎは要注意。根腐れを起こす原因になります。

WINTER 冬

長時間日光を当てることで耐寒性が強くなります。冬の水やりは秋よりも間隔を開けながら行います。凍結に気をつけるため、週間天気予報を見て寒波や気温が氷点下になる時は断水します。

Column

つぎ 接木には意味がある！

下は柱のようなサボテンだけど、上は違う種類のサボテン…？これはどうなっているの？と思う姿のサボテンを見たことがある方も多いのではないのでしょうか。ここ最近ではインテリアショップなどでも見かけるようになったこの一見変わった姿のサボテン。これはおしゃれやインテリアではなく、しっかりとした目的があります。多くは繁殖が目的で、成長が遅い種類のサボテンを成長の早い台木サボテンの力で育てているためです。成長が早くなれば花も咲き、種を作ることができます。開花まで年数を要するサボテンを接木後、1年で開花させる事も可能となります。



ここは台木のサボテン